

# 凌霜

りょうそう

郡上市の教育理念

【凌霜の心で拓く明日の郡上市】

「凌霜の心」＝高い志と不屈の精神・感謝の心

## 篠脇城跡の発掘調査の結果 ―発掘調査から解き明かす 郡上東氏の山上の居館―

教育委員会では、今年度も引き続き篠脇城跡に関する調査を行っています。広報郡上の令和3年3月号「凌霜」において、発掘調査で出土した、茶の湯に用いられたと考えられる天目茶碗や茶臼、酒宴に用いる土師器皿（かわらけ）、城主の嗜好や地位などを示す青白磁梅瓶などから、山上の曲輪（平らな場所）での郡上東氏らしい風雅な生活の様子について紹介しました。

では、山上の曲輪にはどのような建物や、それに伴う施設があったのでしょうか。今回は、発掘調査で確認された遺構から、山上の曲輪の様子について紹介します。

山上の曲輪西部分では、庭園としての意匠を備えた遺構（以下「庭園遺構」と表記します。）を確認しました。この庭園遺構は長軸11m以上、短軸約7mの楕円形（写真の白破線）を呈し

た池と考えられるくぼ地と、その中に配置された形や大きさの異なる景石（日本庭園で所々に置かれる自然石）で構成されています。池状のくぼ地の護岸には、青みのある川原石を選別して山上まで持ち込み、並べた様子が見えます。全容等は不明ですが、この庭園遺構に面して礎石建物（石を土台とした建物）が山上の曲輪中央部分にあったと考えられます。

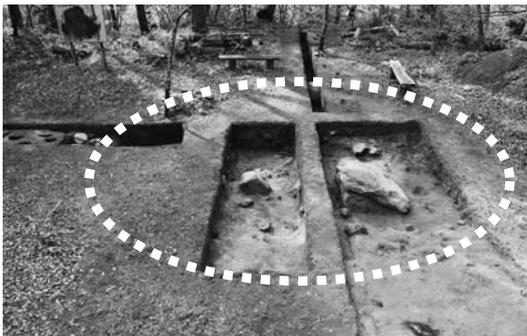
一方、山上の曲輪東部部分では、小振りな石をほぼ垂直に積み上げた石垣と、間隔を開けて置かれた2つの大形の立石により段差を設けて、曲輪が区画されています。この立石の間を出入口として、庭園や礎石建物のある曲輪と下段の曲輪とを行き来していたと考えられます。また、石垣の上には土堀が巡っていたと推測されます。

山上の曲輪の南側には土塁が築かれています。土塁が造成される以前は平らな場所が広がり、この平らな場所にも土堀が巡らされていたと推測されます。これまでの発掘調査により篠

脇山の山上には、庭園を備えた居館があったことが想定され、全国的にもめずらしい事例と評価されています。山麓の居館が篠脇山の山上に移され、景石が置かれた庭を眺めながら茶の湯を嗜み、酒宴を催して客人をもてなしていた郡上東氏の姿が想像されます。

篠脇城跡での発掘調査終了後には、調査成果を報告書にまとめることとしています。発掘調査にあたっては、関係のみならずのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。今後、調査でわかったことを紹介していきますので、郡上東氏や郷土の文化財について理解を深めていただければ幸いです。

篠脇城跡での発掘調査終了後には、調査成果を報告書にまとめることとしています。発掘調査にあたっては、関係のみならずのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。今後、調査でわかったことを紹介していきますので、郡上東氏や郷土の文化財について理解を深めていただければ幸いです。



庭園遺構全景（東側から撮影）

## 戸別受信機の受信状況の確認について

市からの防災情報や行政連絡を行う「防災行政無線放送」の戸別受信機は、気象条件・地形条件等によっては放送電波をうまく受信できないことがあります。放送が入らなかったり、雑音が入る場合は下記の対応により、設置場所を変えていただくことなどをお試しください。下記事項を試しても不具合が解消されない場合は、総務部総務課または各振興事務所までご連絡ください。

### 【放送が入らなかったり雑音がひどい場合】

部屋の中で戸別受信機を移動し、良好に受信できる場所がないか、ご確認ください。（周辺にTV・FAX・インターネットモデム等の機器がある場合は1m以上離してください。）  
本体アンテナが伸びていない場合は、アンテナをいっぱいまで伸ばしてください。

毎日決まった時間に流れる放送により、戸別受信機から放送されることを確認できます。

朝の音楽 6時（7時） 昼のチャイム 12時  
夕方のお帰りの音楽 16時30分（17時）  
夜のおやすみ放送 20時55分

### 【問い合わせ先】

総務部総務課（TEL：67-1832）または各振興事務所

